

講義名	日本語資格試験講座 【留学生科目】		
担当教員	野村 由香里		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b> 日本語能力試験N1の合格を目指し、文法を中心に授業を行う。まず各文型の意味と接続の形を様々な例文を挙げながら理解する。また、学習した文法項目が日常でもつかえるように、例文作り等も行う。
--

<b>到達目標</b> 1. 学生がN1に合格できる文法力を身につける 2. 学生が学習した文法項目を実際に話したり、聞いたりした時に分かるようになる 3. 学生が既習の文法を使い、例文を作ることができるようになる そのためには、学生が実際に目の前でその言葉が話されている場面や状況を見聞きする必要があるため、対面授業を行う。 *但し、学生に通字困難な事情が生じた場合には、学生と相談の上、対応する。
---

<b>提出課題</b> 授業中に指示
-----------------------

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b> 授業中に個別に指示
---

<b>評価の基準</b> レベルチェックテスト（10%）中間試験（50%）期末課題（40%）
---

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> 1. 欠席確認は毎回点検を行う 2. 5回以上欠席した場合は期末試験を受けることができない 3. 授業が始まって15分以内の入室は遅刻とみなし、遅刻3回で1回の欠席となる 4. 15分以上の遅刻は欠席とみなす（授業は受けてもよい） 5. 授業時には辞書を携帯すること
--

<b>教科書</b> ・使用しない。					
-----------------------	--	--	--	--	--

<b>プリント資料及び参考文献</b> 1. 『くらべてわかる日本語表現文型辞典』大塚YWCA「リサーチ」2009 ISBN978-4-901429-72-6 2. 『スーパー合格日本語能力試験N1文法対策標準テキスト』行田悦子他著 秀和システム 2011 ISBN 978-4-7980-2564-3 C0081 3. 『日本語文型辞典』グループ・ジャマシイ「くろしお出版」1998 ISBN 4-87424-154-9
--

<b>授業計画</b> 1. 授業内容や評価方法の説明 / N1文法のチェック 2. 「同時に・すぐに」という意味を表す機能語 3. 「同時に・すぐに」という意味を表す機能語 4. 「同時に・すぐに」という意味を表す機能語 5. 「理由・逆説・仮定」という意味を表す機能語 6. 「理由・逆説・仮定」という意味を表す機能語 7. 「理由・逆説・仮定」という意味を表す機能語 8. 中間理解度試験の実施とその解説 9. N1読解問題実施 10. 「目的や働き」の表現」という意味を表す機能語 11. 「目的や働き」の表現」という意味を表す機能語 12. 「目的や働き」の表現」という意味を表す機能語 13. 「程度ととりたて」という意味を表す機能語 14. 「程度ととりたて」という意味を表す機能語 15. 「程度ととりたて」という意味を表す機能語
--

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> 予習（90分） その日に学習する新しい機能語に目を通し、漢字の読み方や意味の分からない語彙を調べる。 復習（150分） その日に学習した機能語の意味と接続の形を理解、定着させるために、実際の問題を間違いがなくなるまで、何度も解いてみる。自分で文型をつかった例文を考える。
--

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> この科目の修得は流通科学大学の定めるディプロマポリシー2「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成に際して、
--

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
-------------------------------

<b>実務経験の有無及び活用</b>
--------------------

<b>備考</b>
-----------